

第 121 回 理 事 会 議 事 次 第

日本商品先物振興協会

日 時 平成 29 年 1 月 24 日 ( 火 ) 正午

場 所 (株)東京商品取引所 9 階会議室

議 案

第 1 号議案 平成 29 年度における取組課題について

そ の 他

以 上

## 平成29年度における取組課題 骨子(案)

### 1. 商品先物市場の活性化・流動性拡大に向けた取組

商品先物市場の活性化を図るうえで、ベースの流動性供給者として個人投資家の参入拡大が不可欠であるので、引き続き個人投資家、とりわけ商品先物取引の潜在的顧客と期待される株・投信・FX等の金融取引投資家層への訴求に重点をおき、様々なチャネルから商品投資に係る情報発信を行う。

#### (1) 投資家向けセミナーの開催・協賛(継続)

商品投資に関するプログラムを主体としたセミナー・イベントを取引所等と共同で開催・協賛する。

#### (2) メールマガジンによる情報発信(継続)

セミナー来場者の商品投資への関心を持続させ、取引参加への動意付けにつなげるため、本会にメールアドレスを登録した投資家に対して、会員が実施するセミナー情報等を記載したメールマガジンを定期的に送信する。

また、今年度から著名トレーダーによる市況予測等、投資家の興味を喚起する情報を追加する。

#### (3) 新規商品の普及啓蒙

白金限日取引等上場が予定されている新規商品の認知度向上及び取引活性化を図るため、WEBサイトでの特集ページの公開やメルマガ購読者に対する関連情報の配信等のプロモーション活動を展開する。

#### (4) 「みんなのコモディティ」の訴求力強化とコンテンツの充実

「みんなのコモディティ」を通じて広く投資家に商品投資への興味を喚起するため、新たに以下の取組を推進する。

新規来訪者の誘引につながるよう、みんなコモに寄稿するコラムニストのTwitterやfacebook等を通じて情報の拡散を図る。

顧客誘引力のあるコンテンツのアーカイブ化、トップページからサイト内の各コンテンツへの導線の整理等を進める。

#### (5) 協会ホームページのコンテンツの追加・更新

現在掲載している商品先物取引の機能・仕組み、上場商品の価格変動要因等について解説したコンテンツをベースに、以下の改良を加える。

新規上場が予定されている白金限日取引、石油現金決済取引に関する情報の追加

各商品の現在値、取引証拠金の最低額（PSR）の掲載

各コンテンツから会員サイトへの誘導（リンク）の強化

また、既存コンテンツの整理・再構築を行い、メリハリのきいた情報提供画面に改める。

## 2．会員の営業活性化に向けた取組

### （1）新規商品の営業支援

白金限日取引、石油現金決済取引に係る会員の営業活動に資するよう、パンフレット・ホームページ用コンテンツ等を作成し、電子ファイルにより会員に提供する。

### （2）外務員向けセミナー（市況講演会）の開催（継続）

主要銘柄の価格変動要因等上場商品に関する知識の向上に資するよう、外務員向けセミナーを継続して開催する。

### （3）会員セミナーへの協賛（継続）

会員の啓蒙活動を支援するため、会員各社が実施するセミナーに対し、要請に基づき本会が協賛し、当該セミナーを協会ホームページで告知するとともに、メールマガジンで配信する。

## 3．望ましい金融所得税制の実現に向けた取組（継続）

個人投資家がリスク資産に投資しやすい環境を整備するため、引き続き、デリバティブ取引による損益と上場株式の譲渡損益との通算等を可能とする税制（金融所得課税の一体化）の早期実現に取り組む。

## 4．商品先物取引の認知度向上に関する取組

### （1）「みんなのコモディティ」の共同運営（継続）

商品投資に関する情報ポータルサイトとして取引所・業界団体共同で運営。

### （2）投資クラブ等を対象とした講師派遣（継続）

日本個人投資家協会との共同セミナーを開催予定。

( 3 ) 大学における寄付講座の開講 ( 継続 )

青山学院大学、明治学院大学で開講。

5 . 業界団体のあり方に関する検討会議の設置

商品先物業界の構造変化及び会員である商先業者の経営環境を踏まえ、日本商品先物取引協会及び日本商品委託者保護基金の協力を得て、本会を含む業界団体の今後のあり方について検討する場を設置し、望ましい方向性を整理する。

以上

## 第28・29回 C X市況講演会実施状況

### 1. C X市況講演会とは

上場商品に関する市況分析や相場予測、テクニカル分析手法をテーマに本会が商品取引所と共同で開催している講演会。

登録外務員の知識向上、商品投資家への普及啓蒙を目的として年6回程度を目途に開催している。本年度は既に5回、平成29年に入ってから2回開催した。

### 2. 第28・29回講演会の開催日・場所・講師・テーマ・参加会社数と受講者数

#### (1) 第29回

開催日 平成29年1月17日(火)

開催場所 東京(東商取地下1階)

講師・テーマ 第1部 江守 哲氏 金相場の動向

金市場・相場を取り巻く環境の変化について、現在に至る背景をグローバルマクロ的視点から説明。米大統領選後の米国株・ドルの高騰など時宜に応じた話題を織り混ぜながら相場予測を解説。

第2部 小菅 努氏 2017年の注目銘柄～原油・ゴム相場はどう動く

2016年12月の原油協調減産の背景と最新の原油需給・価格動向分析を紹介、2017年の原油相場のポイントと展望を解説。また2016年末から急騰を続ける天然ゴム相場の現状分析では、チャイナマネーの商品市場への流入とビットコイン相場の動向にも言及した。

参加会員数 7社

受講者数 34名(うち投資家4名)

#### 【受講者の反応】(アンケート回答者29名)

##### 主な意見

わかりやすかった 27名(第1部、第2部)

専門性を高めてほしい 2名

##### 本講演会に望むこと

金相場全般ではなく、テーマをしばって掘り下げた話を聞いてみたい。

穀物のセミナー希望。回数も増やしてほしい。

オプション取引を希望。

(2) 第30回

開催日 平成29年1月18日(水)

開催場所 大阪(大阪堂島取6階)

講師・テーマ 第1部 中村 信次氏 コメ相場の推移と展望、農協改革の影響  
平成28年産米の相場動向を振り返りつつ、29年産米の需給環境と相場の勘所を解説。また政府・自民党方針によるコメ事業改革が流通と価格形成に及ぼす影響にも触れた。

第2部 小菅 努氏 2017年の注目銘柄～原油・ゴム相場はどう動く

東京会場での講演内容に金の市況分析と展望を加えて説明

参加会員数 8社

受講者数 33名

【受講者の反応】(アンケート回答者18名)

主な意見

わかりやすかった 13名(第1部) 22名(第2部)

難しかった 2名

本講演会に望むこと

産油国の動向を掘り下げて聞いてみたい。

白金市況も聞いてみたかった。(2名)

為替、ビットコインを取り上げてほしい。

金・原油・白金をメインにセミナーの回数を増やしてほしい。

為替に特化したセミナーを希望。

もう少し講演時間を長くしてほしい。

参考

(1) 平成28年度に開催した講演会(全5回)における参加回数別商先業者数

5回	1社	2回	5社
4回	3社	1回	2社
3回	4社	合計	15社

(2) 同1社あたり参加延べ人数

1～10人	9社
11～20人	4社
21～30人	1社
31～40人	1社
合計	15社

以上